

小児の頭痛

◆症状

幼少時期から見られます。子供の頭痛で最も多いのは片頭痛です。ズキンズキンとする脈打つような痛みで、嘔吐や吐き気を伴い、光、音、臭いに敏感になることがあります。歩行や階段昇降で痛くなるため、横になりたがります。頭痛は1〜72時間続きますが、通常は一晩眠ると改善します。また緊張型頭痛は片頭痛ほど痛みは強くはないですが、だらだら続く、締め付けられるような頭痛です。

◆診断と検査

上述の症状があれば診断が可能です。しかし時々脳や脳血管の病変、貧血、稀に高血圧などで頭痛を起こしていることがあるため、頭部MRIや血液検査でそれらの病気がないか調べておく必要があります。

◆治療

まずは睡眠不足の解消や規則正しい日常生活を取り戻すことが大切です。ゲームやスマートフォンなどの規制も必要となることがあります。また疲れやストレスや食事など誘発される因子に注意して生活する必要があります。痛みが強いお子さんでは鎮痛剤であるアセトアミノフェンやイブプロフェンを使用します。頭痛がひどくなってからより、感じ始めたらすぐに服用の方が効果が見られます。また週2〜3回以上薬を飲む必要がある場合、予防治療薬を使用します。予防治療薬には風邪薬で用いられるシプロヘプタジン、抗てんかん薬であるバルプロン酸、循環作動薬であるプロプラノロールや塩酸ロメリジンなどを6ヶ月程度一時的に使用します。

参考図書

小児・思春期の頭痛の診かた、頭痛専門小児科医のアプローチ、南山堂 2018年
慢性頭痛の診療ガイドライン-日本神経学会・頭痛学会監修 2013年



社会医療法人弘道会 なにわ生野病院 小児科